

シグマ委員会創立 30 周年記念講演会から

日本原子力学会の「シグマ特別専門委員会」と日本原子力研究所の「シグマ研究委員会」は、本年 2 月で創立 30 周年を迎えた。創立以来、両委員会は一体となって活動しており、総称して「シグマ委員会 (Japanese Nuclear Data Committee: JNDC)」と呼ばれている。「シグマ委員会」は、現在では 145 名程度の委員が参加しており、多方面からの協力の基に、主に原子炉関連で必要となる原子核と中性子の反応断面積等の核データの整備や核データの積分的な検証を行ってきた。わが国独自の評価済核データライブラリー「JENDL」や核分裂生成物の崩壊熱計算用ライブラリー「JNDC FP 崩壊データファイル」は国内は元より国外からも高い評価を受けている。今後は、高エネルギーの中性子や荷電粒子の核データにも活動範囲を広げつつある。

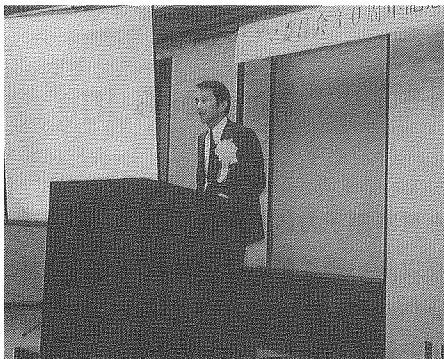
30 周年を迎えたことを記念して、去る 2 月 12 日 16:00~17:40、日本原子力研究所本部のある富国生命ビル（東京都千代田区内幸町）で、以下のとおり講演会が行われた。

挨拶	朝岡 卓見（日本原子力研究所東海研所長*）
挨拶	住田 健二（大阪大学、原子力学会副会長）
「シグマ委員会の 30 年」	更田豊治郎（日本原子力研究所副理事長*）
「JENDL の使用経験」	白方 敬章（日本原子力発電）
「わが国における崩壊熱基準」	木村 逸郎（京都大学）
「自主技術の重要性」	三島 良績（東京大学名誉教授）
閉会挨拶	中嶋 龍三（法政大学、シグマ特別専門委員会主査）

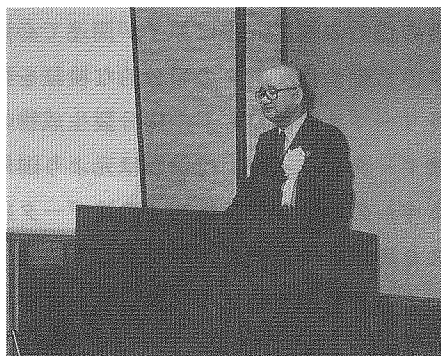
（* 所属は 2 月時点のもの）

これらの講演の内、三島氏と白方氏の講演に付いて、録音テープから起こした原稿をそれぞれ講演者に加筆訂正していただいたので掲載する。なお、更田氏の講演は本誌 44 号の p.14 の記事と、また木村氏の講演は本誌 44 号の p.66 の記事と内容が重複するので割愛させていただいた。

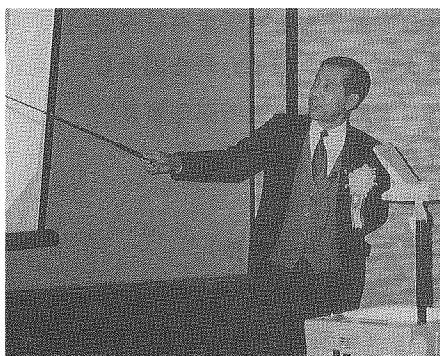
講演の後、祝賀会を行った。この記念行事には 110 名弱の参加者があり盛会であった。



朝岡卓見氏



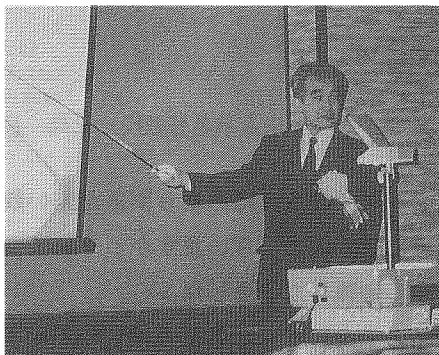
住田健二氏



木村逸郎氏



更田豊治郎氏



白方敬章氏



三島良績氏



中嶋龍三氏



講演会にて